



パウロ6世

福者パウロ6世(第262代ローマ教皇)は、1963年6月21日に教皇に就任し、1978年8月6日に帰天しました。

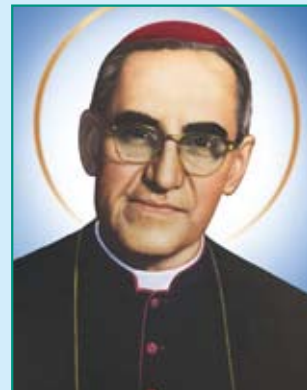
本名ジョヴァンニ・バッティスタ・モンティーニは、1897年に北イタリア・プレーシャ近くのコンチェージオで生まれました。1920年に司祭叙階。教皇庁の國務長官パチェリ枢機卿(後の教皇ピウス12世)のもとで働き、第二次世界大戦下の外交交渉など多くの困難な任務にあたりました。1954年にはミラノ大司教に任ぜられ、第2バチカン公会議(1962年~1965年)を開催した前教皇ヨハネ23世の帰天により、教皇に選出されました。パウロ6世は前任者であるヨハネ23世の後を受け継ぎ、公会議を全うさせ、その理念—人類社会に奉仕する教会の刷新—に基づく教会改革に取り組みました。

パウロ6世は、1964年の聖地をはじめ、5大陸を訪問し「旅する教皇」と呼ばれました。教皇として初めて国連を訪れ「世界平和」をうったえ、そのため国連の意義をたたえる演説を行いました。

諸宗教の相互理解や、現代社会の根深い問題である無神論についての研究を促し、シノドス(司教会議)を始め、また「正義と平和委員会」を教皇庁に設置して各教区にその開設を呼びかけました。1968年1月1日には、ベトナム戦争激化の中で平和メッセージを全世界に呼びかけ、これ以後、元旦を「世界平和の日」に決めました。

カトリック教会の社会問題への考え方を「ひとり一人と人類の全体的(インテグラル)な進歩」として示した回勅『ポプロールム・プログレッシオ(諸民族の進歩推進について)』(1967年)、生命の尊さを説いた回勅『フマネ・ヴィテ(人間のいのち)』(1968年)、使徒的勅告『福音宣教』(1975年)など、重要なメッセージを発信しました。

こうしてパウロ6世は、第2バチカン公会議後の新しい「現代の教皇」の姿を示し、それは後継の教皇たちに引き継がれています。



オスカル・ロメロ大司教

ロメロ大司教は軍隊にむけてこう強く訴えた翌日、1980年3月24日、神の摂理病院の聖堂でミサをささげている最中に暗殺された。

1977年サン・サルバドルの大司教に任命された時、国情は悪化し軍隊は人々を殺していた。正義を求めた多くの教師・司祭・修道女たちが行方不明となっていた。特に親友のルティリオ・グランデ神父が殺された時、その遺骸に立ち会ったことが彼にとって完全な回心の転機となった。この時、貧しい人々のために歩むという明確な道を彼は確信したのである。もはや沈黙してはいられない。

「貧しい人々に出会ったおかげで、福音の核となる真実を取り戻すことができました。福音を通して神のみことばは回心しなさいと強く促している」、「貧しい人々は教会が進むべき道筋を示してきた。貧しい人々に対して行われている不正義に対し、彼らの側に立って語るなければ、彼らと一致しなければ、教会はイエス・キリストの真の教会とはいえない」、「貧しい人々に関わる者は誰であれ、彼らと同じ運命を受けなければならぬ。貧しい人々は連れ去られ拷問され死体となって発見される」

彼にとって神のみ心に従って教会を築くということは、貧しい人々の心と同じ鼓動をうつ教会を築くことだった。これが、彼が伝えた良い知らせ、福音だったのである。

オスカル・ロメロ大司教は殺された。しかし彼の声は決して消え去ることはない。貧困、不正義、暴力に苦しむ国の中で、彼は希望のシンボルとなった。

「司牧者として愛する人々のために自らの命を与えよ、という神の命令に私は従う義務がある。それが私を暗殺しようとする者のためであったとしても。私はエル・サルバドルの贖いと復活のために、私の血を神に捧げる。私を殺しても私は人々の中に復活するだろう」。彼のこの言葉はエル・サルバドルの人々の心に今も躍動している。

- 1917年 8月15日 エル・サルバドルで生まれる
- 1929年 貧困のため12才で学校をやめ大工の見習いとして働く
- 1931年 14才で神学校に入る
- 1937年 教皇庁立グレゴリアン大学で学ぶ
- 1942年 4月4日 25才で司祭叙階される
- 1970年 サン・サルバドルの補佐司教に任命される
- 1974年 サンチアゴ・デ・マリアの司教に任命される
- 1977年 サン・サルバドルの大司教に任命される
- 1979年 バチカンを訪問しパウロ6世教皇に国内の殺人、拷問、拉致について詳細な報告書を提出
- 1980年 3月23日 説教で軍隊に向かって「弾圧をやめなさい」と訴える
- 1980年 3月24日 ミサ中に暗殺される
- これを記念して国連は3月24日を「著しい人権侵害に関する真実に対する権利と犠牲者の尊厳のための国際人権デー」と制定した
- 2015年 2月3日 教皇フランシスコにより「殉教者」とであると宣言される
- 2016年 5月23日 列福(於・サン・サルバドル)
- 2018年10月14日 列聖(於・バチカン)



- 1897年 9月26日 北イタリアに生まれる
- 1953年 ミラノ大司教
- 1962年10月11日 第2バチカン公会議開会
- 1963年 6月21日 パウロ6世教皇就任
- 1965年 国連で平和を訴える
- 1965年12月7日 第2バチカン公会議『現代世界憲章』発布
- 1967年 回勅『諸民族の進歩推進について(ポプロールム・プログレッシオ)』発布
- 1967年 教皇庁に「正義と平和委員会」を設立。全世界の司教協議会にも同じ趣旨の委員会を設けるように要請。
- 1968年 「神の母聖マリア」の祭日である1月1日を「世界平和の日」とし、メッセージを発表。以降、歴代の教皇が毎年メッセージを発表。
- 1975年 使徒的勅告『福音宣教』発布
- 1978年 8月6日 帰天(於・カステル・ガンドルフォ)
- 2014年10月19日 列福(於・バチカン)
- 2018年10月14日 列聖(於・バチカン)

